

白子高校 同窓会報

題字 和田吟水(順子) 高 16 回

発行 三重県立
白子高等学校同窓会

☎ 510-0243 三重県鈴鹿市白子 4-17-1
電話 059-386-0017
FAX 059-386-5510

印刷・デザイン 株式会社サラト
☎ 670-0948 兵庫県姫路市北条宮の町 172
電話 079-284-1380
<https://salat.co.jp/>

会長挨拶



同窓会会長
服部 高明

会員の皆さまには、日頃より同窓会の活動にご理解とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

本会報は2年に一度の発行となりますが、こうして皆さまに近況をお届けし、母校とのつながりを感じていただけることを、会長として大変うれしく思います。

令和2年11月には、母校は創立100周年を迎えました。記念式典では、多くの同窓生が母校に集い、青春の日々を語り合い、母校の歴史と未来を共に思い描きました。あの日の光景は、母校が私たちの人生に与えてくれた影響の大きさ、そして卒業してもなお続く絆の深さを改めて実感させてくれるものでした。

社会の変化は速く、働き方や人との関わり方も多様になりました。そんな時代だからこそ、同窓会という場でつながりを保ち、互いの近況を知り、励まし合うことには大きな意味があると感じます。同窓生の活躍は、母校の誇りであり、在校生にとっても大きな励みです。

どうか皆さまそれぞれの場所、培った経験や知恵を活かし、地域や社会に貢献していただきたいと思えます。そして、母校で得た学びや友情を糧に、新たな挑戦を続けてください。再び母校で顔を合わせるとき、互いに胸を張って報告し合えるような歩みを、それぞれの人生で刻んでいたければ幸いです。

今後とも同窓会活動が皆さまにとつて身近で心強い存在となり、母校と社会をつなぐ懸け橋として発展していくことを願い、挨拶とさせていただきます。



「次代を担う白子高校生の成長を共にサポート」



白子高校 校長
水谷 正樹

らどれほど技術が進んでも平和でウェルビーイングな社会を創り上げていくのは、人間の力であり、その使命が大いに期待されるのは次代を生きる生徒達です。

同窓生の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。また、平素より母校教育活動へのご支援、ご協力を賜り心から厚くお礼を申し上げます。社会で活躍されていらっしゃる同窓生の皆様の母校愛は、在校生はもとより教職員にとりまして心強い支えであり、大変感謝しております。

私は、昨年4月に本校に着任し、2年目を迎えます校長の水谷正樹でございます。どうぞよろしくお願い致します。

さて、今日の社会はAIやテクノロジーの目覚ましい進化、不安定な国際社会や環境問題など急速な変化により予測困難な時代となっています。しかしなが

「規則や約束を守る力」「進路や職業を選択する力」「基礎的・専門的な知識」などを育成し伝統の良さを守り続ける『不易の教育』と、「意見を聴き発信する力」「働きかける力」「課題を見つけ解決に取り組む力」「自己の役割を認識し実行する力」など、今の社会から求められる力を育成する『社会の変化に対応できる教育』の両面を充実させるため、様々な取組を進めています。（本校が目指す姿や行動計画等の詳細を記述した学校マネジメントシートは、毎年更新し、学校ホームページに掲載しておりますので、ぜひご覧ください。）

本校では生徒の志、保護者の願い、地域の期待をベースに、本県の教育ビジョンが示す方向性も鑑み、学校経営を進めています。目指す学校像として「互いの人権を尊重し心豊かな生徒を育てる」「学力向上と進路実現を図り自立した生徒を育てる」「地域から愛され応援される誇りを持った生徒を育てる」の三本の柱を掲げ、目指す生徒像の実現に向けて、

「規程や約束を守る力」「進路や職業を選択する力」「基礎的・専門的な知識」などを育成し伝統の良さを守り続ける『不易の教育』と、「意見を聴き発信する力」「働きかける力」「課題を見つけ解決に取り組む力」「自己の役割を認識し実行する力」など、今の社会から求められる力を育成する『社会の変化に対応できる教育』の両面を充実させるため、様々な取組を進めています。（本校が目指す姿や行動計画等の詳細を記述した学校マネジメントシートは、毎年更新し、学校ホームページに掲載しておりますので、ぜひご覧ください。）

どのように社会貢献していくか探り、将来の進路や職業の選択に繋げていく等、個々の生徒が正解のない問いと向き合いながら探究活動に取り組み、自ら希望する進学先・就職先に挑戦する力を高めています。

部活動では、運動部・文化部の計23部において、各部が掲げた目標の達成に向けて日々仲間と共に練習を積み重ね、技術力と精神力を高めています。

特に、卓球部は本年度も活躍し、男子は県高校総体6連覇達成と共に全国高校総体ダブルスでは準優勝に輝きました。女子は県高校総体30連覇という偉業を達成し、全国高校総体開会式の間において表彰されました。また、吹奏楽部においても、昨年の吹奏楽コンクールやマーチングコンテストでの全国大会出場の際を活かし、本年度も連続出場を目指して頑張る生徒を教師がサポートしています。この様に、生徒達の頼もしい成長を見守りながら、教職員も生徒と共に充実した日々を過ごしています。

そして現在、三重県では生徒数の減少が進むことを見据えた県立高校の再編活性化のため、

県内の6地区で協議会を設け、15年先（2040年度）の学校の在り方を検討しています。本校が位置する鈴鹿亀山地区においても、15年先には地域の中学生が概ね半減することを考え、先を見通した将来の方向性を決める重要な時期となっています。

私たちは、次代の社会を担う若者を育てるため、本校に在籍する生徒の教育内容の充実はもとより、今後鈴鹿亀山地域で学ぶ生徒が希望の持てる豊かな学びの機会を創出するため、生徒にとり何が必要かを第一に考えて教育活動の充実・改善に努める所存です。

このような状況ではありますが、同窓生の皆様のご活躍が本校の教育の成果であることを自信に、これからも生徒達の心の成長や社会性の形成を重視し、社会人として地域社会で貢献できる人材を輩出するよう日々取り組んで参ります。

今後とも、変わらぬご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。最後になりますが、同窓生皆様のご健康とご活躍を心より祈念し、ご挨拶とさせていただきます。

吹奏楽コースの近況について

文化教養（吹奏楽）コース 齋田 努

文化教養（吹奏楽）コースの主任を担当しています齋田努と申します。本年度は、迫田先生が桑名高校へ異動となりました。替わりとして、新規採用の松田佑先生が赴任し、3名体制で運営しています。

吹奏楽コースとしては、8年ぶりに志願者が45名と募集定員を超えました。中学校の部活動が地域移行へと進む中、生徒確保が難しくなっていますが、県内唯一の管打楽器を専門的に学べるコースとして、その魅力を発信していきたいと考えています。

コースでは、3年前に始めました、演奏実習を白子地区限定で行っています。学期に数回のペースで、コースの専門授業の時間帯に行っています。授業時間内での活動で、遠方に行くことはできませんが、地域の皆様と音楽を通して交流しています。

次に、文化教養（吹奏楽）コースの補完的役割の吹奏楽部では、昨年度、11月に開催されました日本管楽合奏コンテスト全国大会S部門（15名以下）で最優秀グランプリ賞・文部科学大臣賞を受賞し、2年ぶり2回目の日本一を果たしました。また、全日本マーチングコンテストに東海地区代表として出場し、念願の大阪城の舞台に立つこ

とことができました。そして、専門的な授業で培った演奏技術・演奏表現を生かし、各種ソロコンテストにも積極的に参加しています。昨年度は、神戸国際コンクール本選に5名が出場しました。そして、3月の中部日本個人重奏コンテスト本大会個人の部では、中島凜月さん（現3年、Tp）と、加藤さくらさん（現2年、Hr）が金賞。日本ジュニア管打楽器コンクール本選考会では、加藤さくらさん（第3位）と伊藤慶さん（現名古屋音楽大学）が銅賞（第3位）を受賞しました。更に名古屋トランペットコンクールU20部門において、中島凜月さんが、音大生も参加する中、第1位を受賞しました。

紙面の都合上、一部の結果しか掲載できませんが、ソロコンテストには30名以上が参加し、コースの専門的な授業での経験を生かしながら、それぞれの将来の進路実現を見据え、各自の希望に沿った形で様々な活動を展開しています。



生活創造科の学びの先に

生活創造科 鈴山いずみ

同窓会員の皆様、いかがお過ごしでしょうか。令和5年の報告以降、活動制限が次々と解除され、従来通りの学科行事・家庭科技術検定・学校家庭クラブ活動を実施しております。一方、全学年、1人1台のタブレットを持って授業を受け、静止画・動画などを見ながら実習を進めたり、発表したりと、デジタル化がかなり浸透している様子です。

さて、生活創造科の行事として続けております高齢者お弁当サービスですが、白子地区の民生児童委員さんのご協力を得て、年1回秋に限定数にて実施させていただいております。地域に根ざした活動として多くの方々から、ご期待をお寄せいただいていることに感謝し、お待ちいただいている高齢者の皆様に、生徒の手書きによるお手紙を年2回お送りすることを続けております。「手紙を書く」習慣が、先に述べたデジタル化の影響で薄れゆく中、受け取っていただいた方々から手書きのお返事を頂戴することで、新たな感動を得ているようです。地場産業である伊勢型紙の体験実習をはじめとし、伝統的手作業や手作りのよさを伝えるべく、日々の実習指導を行っております。

児童福祉の面では、愛宕小学校区の子ども食堂「かもめっこ食堂」のメニュー提供とボランティア参加をさせていただいております。昨年度は、夏まつりとクリスマス会のお手伝いに参加し、子どもたちと縁日で遊んだり、一緒にケーキのデコレーションをしたりと楽しい時間をと

もに過ごさせていただきました。生活創造科の目標である「誰かの笑顔のために」の意味をみしめることができたのではないのでしょうか。

このように、地域の皆様と交流させていただくことで、生徒たちは学んだことが実際に生かされることを目の当たりにすることができました。今後の各種検定・コンクール・学校家庭クラブ活動への意欲につながるものと思われま

す。令和7年7月31日、8月1日の2日間、第73回全国高等学校家庭クラブ研究発表大会が、三重大会として四日市文化会館にて行われ、県内家庭クラブ加盟校を中心として運営をさせていただきますました。白子高校の現2年生と3年生は受付・案内・誘導の役割をしっかりと果たしてくれました。「他者のためにできることをやる」が実行できたと

思いますし、準備段階から当日まで、著しく精神的な成長が見られました。接遇態度の良さで高い評価を得ることができたことも大変嬉しく思いました。今後まだまだ行事は続きますが、生徒のさらなる活躍を期待しているところです。

三重県産業教育フェアですが、今年もイオン津南において10/18、19に開催予定となっております。服飾コースは自作のドレスでファッションショーに参加、食彩コースは大徳屋長久さんとのコラボレーションで

お菓子の販売をいたします。ぜひお越しください。卒業生の皆様から直接現場でお声がけいただくことが生徒の励みになります。また、今年度は全国産業教育フェア（福島）への出展が決定しております。（10/25、26開催予定）

生活創造科での学びは生活産業の基礎基本であり、いずれは伝統・地場産業の担い手として活躍することも想定しております。今後も地域を担う貴重な人材として期待されるよう日々の指導に尽力いたしますので、ご支援ご協力をいただきますようお願い申し上げます。



ニュース満タン! 白子高校

4月 入学式・対面式



5月 県総体壮行会



6月 体育祭



7月 クラスマッチ



9月 修学旅行



9月 おさかな料理コンクール



10月 文化祭



11月 高齢者お弁当サービス



12月 ごみバスターズ(地域清掃活動)



3月 卒業式



卓球部

『その気があれば』
男子卓球部主将 北村悠貴

私は小学校入学前、卓球経験者である父の手ほどきを受けて卓球を始めました。しかし当時は卓球が好きになれず、いやいや練習していた記憶があります。そんな私の気持ちが変わったのは、低学年のときに初めて出場した県大会で勝ち進み、全国大会への出場が決まった時でした。それをきっかけに、「もっと強くなりたい」という思いが芽生え、練習に前向きに取り組むようになりました。

小学校5年生の夏休みには、同じ卓球場で練習していた白子高校の練習に混ざってもらった機会がありました。格上の高校生たちに必死で食らいつくうちに、自分でもどんな力がついていく実感があり、卓球の楽しさと奥深さを改めて知ることができました。

中学生になると、県外の大会でも勝てるようになり、全国大会で競い合ったライバルたちは次々と強豪私学へ進学していききました。自分も同じ道を選ぶべきか悩みましたが、最終的には地元の公立校である白子高校への進学を決めました。そこには、強豪私学に劣らない練習環境と、何よりも指導者や選手たちの卓球への情熱がありました。



私は、高校生である以上、卓球だけに偏るのではなく、勉強や学校行事も大切にしたいと考えていました。実際、強豪私学の中には授業を午前中だけにして、午後は部活動に集中する学校もあります。しかし私は、6限まで授業を受け、テスト前にはしっかりと勉強し、学校行事にも積極的に参加しながら、放課後に卓球に取り組む。そんな「当たり前」の高校生活を送りながら全国上位を目指したいと思っていました。とはいえ、「それは理想論にすぎない」という声が聞こえてきたことも事実です。

そんな中で迎えた入学から4か月後、最初のインターハイ。無我夢中でプレーしているうちに勝ち進み、気がつけば中学時代には想像もできなかった5位入賞を果たすことができました。さらに2年生のインターハイでは、盟友・大畑と組んだダブルスで決勝に進出。その年の国民スポーツ大会では白子高校単独チームとして出場し、5位入賞。全国選抜では、学校対抗で白子高校史上初となる5位入賞を成し遂げることができました。

この原稿を書いている今、最後のインターハイを目前に控えています。ここまで来たからには、学校対抗・シングルス・ダブルスすべてで頂点を目指します。そして、応援してください。ている多くの方々の期待に応えるとともに、「普通の高校生活を送りながらも、意気さえあれば全国の舞台で戦える」ということを、結果で証明したいと思っています。

クラブ活動 頑張っています

剣道部

「直心は道場」
女子主将 大西梨央

白子高校剣道部は、現在男子17名、女子13名の計30名の部員が日々稽古に励んでいます。三重県内の公立・私立の学校の中でも最も多い部員数となっています。部員は中勢地区だけでなく、北勢地区・伊賀地区・南勢地区・牟婁地区など三重県内の様々な地域から集まっております。剣道を通してお互いに切磋琢磨しています。

顧問の玉置先生と多賀先生はとても熱心に指導して下さいます。剣道の技術だけでなく、人としての礼儀や挨拶、掃除などの日々の生活態度にも重きを置かれています。「やるべきことはきちんとやる」という姿勢が、剣道だけでなく人生の基盤として自然と身につけていきます。

そんな厳しさの中にも、部活ならではの楽しさがあります。みんなで話したりふざけ合ったりする時間、チームで目標を達成した時の達成感、そして部員たちのノリの良さが、



剣道部の魅力の一つです。また、遠征にもたくさん連れて行っていただけるので、県内だけでなく県外の様々な強豪校と試合を通じて交流し、視野を広げる貴重な機会にも恵まれています。今年は男女共に東海選抜大会に出場し、県総体は男子が5位、女子が3位という成績でした。さらに女子は東海総体にも出場し、5位入賞という結果を残すことができました。

現在は男女共に福岡県で行われる玉竜旗大会に向けて、一人一人が目標を持ち日々の稽古に一層熱が入っています。

本校剣道部は卒業後も剣道を続けている先輩が多く、大学や実業団などで活躍している姿は、私たちが在校生の大きな励みとなっています。また、卒業生の方々がよく道場に顔を出して下さい、一緒に稽古して下さい。これも、剣道部の伝統の一つとなっています。こうした世代を超えたつながりが、白子剣道部の強さであり温かさだと感じています。

これから部訓である「直心は道場」(まっすぐで素直な心を持って、いつでもどこでも修行の場となる)という言葉大切にしながら、日々の稽古や学校生活に励んでいきます。今後ともご支援・ご声援のほどよろしくお願いいたします。

令和7年度三重県高校総合体育大会等結果

【女子テニス部】

(団体)

1回戦 白子0-3 暁

【男子テニス部】

(団体)

1回戦 白子2-1 四日市中央工

2回戦 白子0-2 津田学園

【女子ハンドボール部】

1回戦 稲生、津東、鈴鹿高専、白子31-6 名張青峰

2回戦 稲生、津東、鈴鹿高専、白子20-15 いなべ総合

準決勝 稲生、津東、鈴鹿高専、白子33-11 四日市商業

3位決定戦 稲生、津東、鈴鹿高専、白子25-19 暁

→東海総体出場

【男子ハンドボール部】

1回戦 白子11-17 名張・伊賀白鳳

【女子バスケットボール部】

《中地区予選》

1回戦 白子76-47 久居農林

2回戦 白子55-80 名張

順位決定戦 白子40-64 鈴鹿高専

7、8位決定戦 白子59-54 上野

【女子バレー部】

1回戦 白子2-0 朝明

2回戦 白子0-2 尾鷲

【野球部】

《春季東海地区高等学校野球三重県大会 中地区予選》

一次予選 1回戦 近大高専 11-0 白子

二次予選 1回戦 白子 12-0 青山

二次予選 2回戦 久居 11-1 白子

【剣道部男子】

(団体) 5位

【剣道部女子】

(団体) 3位

→東海総体出場

(個人戦) 5位 倉田若葉

→東海総体出場

【サッカー部】

1回戦 青山 0-13 桑名北・白子・石薬師・亀山・大橋学園

2回戦 津工業 10-0 桑名北・白子・石薬師・亀山・大橋学園

【卓球部女子】

(団体) 優勝

→インターハイ・東海総体出場

30年連続39回目

(S) 優勝

伊藤杏莉

準優勝

平岡凜花

3位

三輪紋女

4位

笹村莉央

→インターハイ・東海総体出場

7位

松島朱梨

8位

富田理名穂

→東海総体出場

(D) 優勝

伊藤杏莉・平岡凜花

準優勝

三輪紋女・大仲絢心

→インターハイ・東海総体出場

3位

笹村莉央・富田理名穂

→東海総体出場

【卓球部男子】

(団体) 優勝

→インターハイ・東海総体出場

6年連続15回目

(S) 優勝

北村悠貴

準優勝

大畑瑛祐

3位

伊藤誠

4位

中川博琉

→インターハイ・東海総体出場

6位

鈴木竣翔

8位

溝田颯斗

→東海総体出場

(D) 優勝

北村悠貴・大畑瑛祐

→インターハイ・東海総体出場

3位

井上雅斗・正者幸樹

4位

伊藤誠・吹原大芽

→東海総体出場

東海総合体育大会結果

【剣道部女子】

(団体) 5位

【卓球部女子】

(団体) ベスト8

(S) ベスト16

平岡凜花

出場

伊藤杏莉、笹村莉央、三輪紋女

富田理名穂、松島朱梨、大仲絢心

(D) 出場

伊藤杏莉・平岡凜花

三輪紋女・大仲絢心

笹村莉央・富田理名穂

【卓球部男子】

(団体) 準優勝

(S) 3位

北村悠貴

ベスト16

大畑瑛祐

出場

中川博琉、鈴木竣翔、溝田颯斗

伊藤誠

(D) 優勝

大畑瑛祐・北村悠貴

出場

井上雅斗・正者幸樹

伊藤誠・吹原大芽

全国高校総合体育大会結果

【卓球部女子】

(団体) ベスト16

【卓球部男子】

(団体) 5位

(S) 5位

北村悠貴

(D) 準優勝

大畑瑛祐・北村悠貴

同窓生通信

運命の出会い

武田 真嗣

(旧姓・山川)



これまでの自分の人生を振り返って見た時、そのターニングポイントはいったい何だったのだろうか、そんな思いがふと頭をよぎりました。

昭和46年(1971年)白子高校入学、授業が始まり、クラブ活動もある。さあ、どのクラブに入ろうか。



私は子供の頃からラジコンに興味がありました。「鉄人28号」という大人気のマンガがテレビで放映されていた、子供の頃は夢中で見ていました。金田正

太郎少年が操るリモコン(ラジコン)によって鉄人28号は次々と敵の巨大なロボットを倒していったのです。クラブ活動の中に物理部があり、何とそこにはラジコン部門があるではないか!即決でした。私の目的はただ一つ、金田正太郎が手に持つ送信機(プロポ)、これを手に入れて操縦することだったのです。ほんとに単純な動機です。

時は過ぎ物理部の中をよく観察してみると、すぐ隣で何やら無線機を操作しているグループがいました。そうアマチュア無線です。電波を使って遠く離れた人と通信ができる通信手段です。これが運命の出会いなのか。実際私は高校ではアマチュア無線をやらずに大学入学してからアマチュア無線技士の上級ライセンスを取得し、八木アンテナを使い、主に海外との通信を続けました。ところ

が海外通信となると言葉の障壁が生じます。主流は英語、幸い私は中学・高校時代好きな科目でしたから即英会話教室通いとなりました。先生は英語を母国語とする外国人でした。

さて、大学卒業当時はオイルショックの影響もあり超就職難の時代でした。私は民間を諦め、郵便局に就職しました。郵便には内国郵便と外国郵便があります。当時、津郵便局の窓口にも外国人の方が来局されていました。窓口で応対する度に英語の重要性を痛感していました。そんな折、東京の日米会話学院の官庁企業委託研修に応募できる機会があり、郵政省内部選抜試験が実施されました。私は全国の7名の中に入ることができ、日本語禁止の事実上国内留学を経験させていただきました。さらに東京の郵政研修所で外国郵便の専門研修を受けました。

研修終了後、新東京国際空港郵便局、その後東京の郵政本省勤務となり、英語と仏語の二刀流の世界へと入っていききました(万国郵便連合の公用語は仏語)。

東京在住時代、私はずっと続けてきた「英会話」というNHKラジオ

オ番組で超人気の東後勝明先生との出会いがあり、早稲田大学の教授・助教授の会を参観させていただきました。勿論、東後先生の番組のお相手、スー・ウォンウィッグ、マイケル・リトルモア両氏とも食事会を通じてお話させていただきました。

東後先生は著書「英語ひとすじの道」の中で、修士取得のためのロンドン大学留学と番組のスキットの収録のための一時帰国という二重生活をなされたこと、つらいこと、楽しいことたくさんあったとおっしゃっています。

以上のことから、私の人生のターニングポイントはやはり白子高校での物理部入部にあつたと思います。もしこれがなかったら、私の英語に対する情熱、外国郵便との出会い、大好きな東後先生との出会い、これらすべてはなかったと思います。

第24回・昭和49年卒業生のみなさんを含め、大いなる白子高校同窓生のみなさん、来たる同窓会にてお会いしましょう。

教育実習に

参加して

米 重 咲 来

(名古屋音楽大学4年生)

母校で教育実習をさせていたたいた3週間は、私にとってかけがえない時間となりました。久しぶりに登校する白子高校は、懐かしくもあり、同時に先生方の立場として教室に立つ自分に、少し不思議な気持ちを抱いていました。

実習中は、授業準備に追われる毎日でしたが、生徒たちの真剣なまなざしや素直な反応に支えられ、教える喜びを実感することができました。また、先生方の指導の細やかさや生徒との接し方を間近で見て、教員として必要な姿勢や心構えを学ぶ貴重な機会となりました。

実習を通して、当たり前のようになっている「授業を受けること」「先生がいてくれること」が、実は多くの努力と準備の上に成り立っている

のだと実感しました。教育の現場に立ち、学ぶことの尊さと、支える側の責任の重さを改めて感じました。

最後になりましたが、このような貴重な機会をくださった白子高校の先生方、温かく迎えてくれた生徒の皆さんに心より感謝申し上げます。そして今後の白子高校のますますのご発展と、皆さんのご健勝を心よりお祈り申し上げます。



教育実習に

参加して

阪 拓 海

(三重県立上野高等学校 講師)



昨年、母校である白子高校に教育実習生として戻る機会をいただきました。在学中に過ごした学び舎に今度は指導者として立つことは、懐旧の情と同時に大きな緊張を伴うものでした。

実習中は教科指導の先生のみならず、HR担当の先生や部活動でお世話になった恩師にも多くのご助言を頂戴いたしました。学級の雰囲気や生徒の個性・能力などの実態を念頭に置いた授業ならびに部活動の実践は、在学時には気づくことの出来なかった視点であり、教育観を深く学ぶ契機となりました。

とりわけ強く印象に残ったのは、生徒の学ぶ姿勢です。授業に真剣に耳を傾け、考えを共有し深めるべく話し合い、貪欲に学びを得ようとするその姿勢は、実習生である私を大いに刺激し、励ましてくれました。白子高校の生徒の素直さと直向きさは、本校の誇りであると感じました。私は、その熱意に応えたい一心で毎時の授業準備に臨み、教壇に立つ中で自らも成長させていただいたと感じています。

教育実習を通して、私は教師という職を志す決意を一層固めました。その理由は、白子高校の先生方の生徒ファーストな働きぶり、そして生徒たちの貪欲に学ぶ姿に接したからです。母校での経験は、教職人生における揺るぎない指針となると確信しております。

最後に、このような貴重な機会を与えてくださった母校の先生方、そして温かく迎えてくれた在校生の皆さんに、心より厚く御礼申し上げます。



同窓会総会のご案内

日時：令和7年11月15日（土）10：30～
場所：白子高校会議室

多数の会員のご出席をお願いします。

なお、ご出席の場合は、前もって事務局までお知らせください。

【事務局 TEL 059-386-0017 FAX 059-386-5510】



同窓会報の郵送について

同窓会報の作成費が値上りすることを受けて、同窓会報を本校HPに掲載することにより、郵送は4年毎にすることとなっております。次回の郵送は令和11年度となります。

なお、現在も以下のURLまたはQRコードにて前号の会報をご覧になることができます。

URL：<http://www.mie-c.ed.jp/hsirok/alumni-association/>



QRコード

卒業証明書・成績証明書等の発行について

卒業証明書等の交付申し込みは、月～金曜日の8時20分～16時50分に、まず白子高校事務室に電話で問い合わせてください。名前、卒業年度等をお聞きして、作成、発行いたします。その際、手数料として1通につき350円の三重県証紙（三重県内の銀行で発行）が必要です。

また、成績証明書は卒業後5年間に限り発行しますが、それ以後は単位修得証明書の発行となり、いずれも350円分の三重県証紙が必要です。

いずれの証明書もすぐに発行できませんので、事前に下記までご連絡ください。

【白子高校事務室 059-386-0017】

同窓会

Q&A

- ◎会費(会計)
- ◎高校との接点
- ◎総会等

現在の役員は最後のページの方です。

Q 現在の「会員数」はどのくらいですか？

A 母校の前身は旧制河芸高等女学校、その創立は大正九年四月十七日となっています。新制白子高等学校に引き継がれるまでの二十六年間に二、三二二人が卒業しました。

白子高校のスタートは昭和二十三年、平成三十一年三月までの間に約三三、五〇〇人が卒業しました。

河芸高女会員と新制高校会員を合わせると、約二六、〇〇〇人となります。

Q 同窓会の「会費」はどうなっていますか？

A 同窓会の会費は在学時に月々二〇〇円を徴収し、三年間の合計が七、二〇〇円、これが終身会費となっています。また、これが収入の総てです。

支出の主なもの、全国大会に出場するクラブの援助、その他の特別な教育活動に対する補助、優秀生徒表彰品、総会・役員会の経費等として使われています。

また、特に大きな支出としては会報の発行費用で、

今回の会報では約二六〇万円の経費がかかっています。さらに、図書室の机・イスの寄贈を行いました。

Q 同窓会と白子高校の「接点」は？

A 毎年、卒業式の前に「同窓会入会式」が行われます。同窓会長が入会の祝辞をしています。平成二十四年度から同窓会入会式後に優秀模範生徒表彰が同窓会長から授与され、毎年三十数名ずつ表彰されています。

A 会員名簿を発刊しています。創立百周年を機に、名簿の整理も必要となり、また、学年の同窓会やクラブ総会の連絡網の整備も考えた上、同窓会名簿を令和元年六月に発刊しました。

A また、「同窓会報」は二年毎に発刊の予定で、白子高校の近況と会員の活躍ぶりをお知らせしたいと思っています。(郵送は四年毎になります)

会員の皆さま方の住所変更が連絡されていないとお届けすることが出来ません。住所変更がありましたら、必ず白子高校の事務局までご連絡ください。

【〒五二〇ー〇二四三三

鈴鹿市白子四一七七一

白子高校同窓会事務局

TEL〇五九一三八六〇〇一七】

Q 「総会」はいつ開かれていますか？

A 「総会」は二年ごとに開催し、会長・副会長・会計・監査を任命する…」と定められています。

学年幹事の皆さまには事務局より案内状を送付していますが出席状況は芳しくない現状です。学年の代表として同窓会の運営に意見を述べ、指針を示していただきたいと思います。

また、一般会員の皆さま方には、この会報が案内となります。

今、白子高校は元気に満ち溢れています。生徒の明るい挨拶は、地元の方々や来校された方々の間でも評判となっています。総会をきっかけに、白子高校に足を運んでみてはいかがでしょうか？

出席を希望される会員の方は、準備の都合もありますので、事務局まで前もってご連絡をお願いします。

同窓会は会員の皆さま方の

ものです。先輩として、後輩の行動や母校の動向に大いに関心を持っていただき、後輩の育成、母校の発展に協力をお願いいたします。

【本年度の総会】

十一月十五日(土)
十時三十分より
白子高校会議室



同窓会役員

会 長	服 部 高 明	高 28
副 会 長	村 木 尚 哉	高 40
副 会 長	久 畑 年 生	高 41
書 記	達 知 利 雄	高 36
会 計	後 藤 真 吾	高 39
顧 問	山 鹿 昇	高 16

会計監査	川 北 秀 幸	高 17
常任幹事長	岩 寄 功	高 07
常任幹事	日 置 恒 文	高 19
常任幹事	武 田 真 嗣	高 24
常任幹事	岡 本 晃 宏	高 29
常任幹事	岡 本 昌 宏	高 33

常任幹事	加 藤 丈 晴	高 50
常任幹事	西 尾 佑 輔	高 61
顧 問	村 上 悠 馬	高 52
顧 問	森 雅 幸	高 56

学 年 幹 事 一 覧

[河芸高女]

No.	回	卒業年	氏 名
1	13	昭 11	黒 部 あ い
2	14	昭 12	児 玉 喜 美
3	14	昭 12	谷 内 ひで子
4	17	昭 15	寺 村 志 ず

5	18	昭 16	平 田 喜久代
6	19	昭 17	唯 見 ちゑ子
7	19	昭 17	田 中 あ い
8	21	昭 19	丘 悦 子
9	21	昭 19	中 野 きみ子

10	22	昭 20	西 脇 玲 子
11	22	昭 20	辻 みさ子
12	24	昭 22	中 條 祐 子
13	25	昭 23	佐 野 美枝子

[白子高校]

No.	回	卒業年	氏 名
1	1	昭 26	長谷川 道 子
2	2	昭 27	都 梅 基 治
3	2	昭 27	我 藤 公 勇
4	3	昭 28	松 田 徳 夫
5	3	昭 28	金 子 伊都子
6	4	昭 29	田 中 邦 彦
7	4	昭 29	佐々木 俊 綱
8	5	昭 30	松 城 正 喜
9	5	昭 30	誓 山 信 孝
10	6	昭 31	樋 口 祥 己
11	7	昭 32	宮 崎 敬 子
12	7	昭 32	岩 寄 功
13	8	昭 33	稲 垣 弘 泰
14	8	昭 33	草 野 靖 生
15	8	昭 33	矢 田 泰 司
16	9	昭 34	柘 植 基 一
17	9	昭 34	舟 田 博 治
18	10	昭 35	宇 田 英 毅
19	10	昭 35	河 合 益 男
20	11	昭 36	杉 谷 哲 也
21	12	昭 37	永 田 茂
22	13	昭 38	唐 松 孝 治
23	13	昭 38	中 川 万壽美
24	13	昭 38	松 井 陽一郎
25	14	昭 39	宮 崎 雄 三
26	14	昭 39	佐々木 清 和
27	16	昭 41	梅 川 洋
28	17	昭 42	木 下 哲
29	17	昭 42	奥 田 洋
30	17	昭 42	多 田 美紀雄
31	18	昭 43	桑 名 研 二
32	18	昭 43	奥 野 静 生
33	18	昭 43	鈴 木 幸 男
34	19	昭 44	水 谷 誠 治
35	19	昭 44	小 林 重 治
36	20	昭 45	北 川 貢
37	20	昭 45	前 田 茂
38	21	昭 46	木 邑 欽 弥
39	22	昭 47	片 岡 直 哉
40	22	昭 47	水 江 則 博
41	23	昭 48	長 谷 昇
42	24	昭 49	田 川 清 美
43	26	昭 51	長 島 正 美
44	26	昭 51	前 原 昭 彦
45	27	昭 52	米 倉 満 幸
46	27	昭 52	平 野 広 美
47	27	昭 52	松 本 美ゆき
48	28	昭 53	佐 藤 勝 則
49	28	昭 53	吉 田 玲 子
50	29	昭 54	辻 岡 弘 史
51	29	昭 54	伊 藤 典 子

52	30	昭 55	渥 美 比呂志
53	30	昭 55	岩 谷 和 則
54	30	昭 55	玉 泉 幸 久
55	31	昭 56	内 藤 健 治
56	31	昭 56	前 田 正 也
57	31	昭 56	樋 口 美佐子
58	32	昭 57	大 佛 英 樹
59	32	昭 57	別 府 典 明
60	32	昭 57	中 川 喜 江
61	33	昭 58	益 川 英 明
62	33	昭 58	岡 本 昌 宏
63	33	昭 58	伊 高 美由紀
64	34	昭 59	羽垣内 功
65	34	昭 59	大 島 美 智
66	35	昭 60	宮 原 直 美
67	36	昭 61	内野井 公 一
68	36	昭 61	藤 本 廣 治
69	37	昭 62	山 本 有 恭
70	37	昭 62	新 開 登志江
71	38	昭 63	徳 澄 大 輔
72	38	昭 63	笠 井 めぐみ
73	39	平 01	山 野 義 信
74	40	平 02	村 木 尚 哉
75	40	平 02	中 村 ひとみ
76	41	平 03	杉 野 志 郎
77	41	平 03	田 所 久 実
78	42	平 04	三 谷 英 樹
79	42	平 04	長谷川 悦 子
80	43	平 05	岩 永 大 悟
81	43	平 05	武 田 由美子
82	44	平 06	奥 野 香 裕
83	44	平 06	信 田 麻 記
84	45	平 07	嶋 谷 潤 一
85	45	平 07	廣 森 祐 介
86	45	平 07	奥 山 裕 子
87	46	平 08	土 山 義 嗣
88	46	平 08	蛇 原 千 絵
89	46	平 08	本 岡 朋 美
90	47	平 09	多 武 智 華
91	47	平 09	熊 谷 尚 也
92	47	平 09	木 下 良 一
93	48	平 10	中 濱 厚 志
94	48	平 10	堤 美和子
95	49	平 11	尾 崎 嘉 一
96	49	平 11	生 川 雄 通
97	49	平 11	前 山 幸 美
98	50	平 12	加 藤 丈 晴
99	50	平 12	伊 藤 ゆみ子
100	51	平 13	岩 田 和 久
101	51	平 13	花 尻 聖 士
102	52	平 14	大久保 幸 美
103	52	平 14	岩 崎 久 英

104	53	平 15	鈴 木 一 弘
105	53	平 15	渥 美 雄 一
106	53	平 15	岩 田 可奈子
107	53	平 15	傘 谷 加 那
108	54	平 16	平 田 正
109	54	平 16	金 野 有佳子
110	55	平 17	田 中 良 典
111	55	平 17	加 藤 礼
112	56	平 18	東 大 輔
113	56	平 18	柳 瀬 綾
114	57	平 19	内 田 貴 士
115	57	平 19	藤 本 あや乃
116	58	平 20	横 山 優 磨
117	58	平 20	山 宿 史 織
118	59	平 21	鎌 倉 崇 行
119	59	平 21	佐 野 晴 香
120	60	平 22	中 村 将 吾
121	60	平 22	上 村 恵 子
122	61	平 23	橋 爪 秀 貴
123	61	平 23	前 田 優 兵
124	62	平 24	水 谷 洋 輔
125	62	平 24	金 澤 夏 海
126	63	平 25	打 田 一 真
127	63	平 25	内 藤 優 月
128	64	平 26	杉 永 紗耶佳
129	64	平 26	晒 谷 莉 奈
130	65	平 27	近 藤 愛
131	65	平 27	田 代 大 策
132	66	平 28	大 島 諒 香
133	66	平 28	牧 添 聖 弥
134	67	平 29	川 本 流 勢
135	67	平 29	伊 藤 樹
136	68	平 30	黒 川 花 凜
137	68	平 30	岡 根 貴 紀
138	69	平 31	番 条 晃 大
139	69	平 31	濱 中 香 凜
140	70	令 02	堀 江 巧 人
141	70	令 02	丹 羽 里莉加
142	71	令 03	岡 野 未 空
143	71	令 03	小 倉 三 玖
144	72	令 04	庄 司 圭 佑
145	72	令 04	儀 賀 達 実
146	73	令 05	遠 田 彩 花
147	73	令 05	藤 本 泰 斗
148	74	令 06	浅 野 浩 健
149	74	令 06	市 川 雄 誠
150	75	令 07	山 内 玲 央
151	75	令 07	石 井 悠 斗